

第52回大会開催にあたって



この度、日本医療検査科学会第52回大会の大会長を拝命しました。当学会は、本年より「日本医療検査科学会」に学会名称が変わりました。この記念すべき時期に、歴史ある本学会の大会長を仰せつかり大変光栄に存じております。

さて、本学会は50年の歴史を数え、生化学・血清・血液・一般検査などの迅速化、自動化を目的に設立され、「自動化学会」と称し広く認知されてきました。しかしながら現在、医療・臨床検査の技術革新には目覚ましいものがあり、ゲノム医療、画像診断・解析、AI（人工知能）の活用へと進展しています。このような背景において「日本医療検査科学会」という学会名称が誕生しました。これに合わせて本大会のテーマは“これからの臨床検査のあり方”として、サブタイトルは“日本医療検査科学会の幕開け”としました。改称後の初の大会として、華々しいデビューを飾りたいところでしたが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が発生し、現在も予断を許さぬ状況が続いております。コロナ禍において、オリンピック・パラリンピック企画シンポジウム、国際シンポジウム、サテライトセミナー、交流会などは断念しました。一般演題数も影響を受けましたが、184題を登録いただきました。皆様には厚く御礼申し上げます。

特別講演は自治医科大学学長の永井良三先生に「デジタル時代の医療検査科学」をご講演いただきます。また、改称を記念して記念講演をお願いしました。参議院議員で日本臨床衛生検査技師会の宮島喜文会長に「臨床検査を新生させ、未来を拓く—ポスト新型コロナウイルス時代を考える—」、国際医療福祉大学の大澤 進先生に「これからの臨床検査技師のあり方」をご講演いただきます。教育講演では「臨床検査の原点……検体は宝の山」、「個別検体管理のAI化に向けて」のご講演をいただきます。シンポジウムは“これからの臨床検査のあり方”をテーマに、分子病理検査、臨床検査技師教育、臨床化学検査、生理学的検査、血液学検査を取り上げていただきました。POCセミナー、遺伝子・プロテオミクス技術セミナー、JACLaS共催微生物検査・感染症技術セミナーでは、新型コロナウイルス感染症を取り上げ、検出技術の現状が討議されます。RCPCは天理よろづ相談所病院の松尾収二先生に「検査値を読むトレーニング—「考える臨床検査」徹底討論。検査の奥深さを知る—」をコーディネートしていただきました。今大会も優秀論文賞、優秀演題賞の表彰、講演があります。また、臨床検査を志す学生研究（学部生および大学院生を対象）に対し、「JACLaS Award」の表彰、講演があります。将来を担う学生には今後の活躍が期待されます。

感染対策を考慮した未曾有の大会開催となります。参加者の皆様におかれましてはご理解とご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

一般社団法人日本医療検査科学会第52回大会長
横田 浩充